SERBLIN & SON

セルブリン＆サン

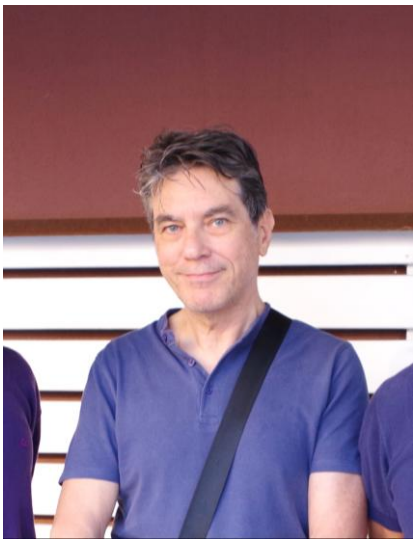
製品資料

ArkGioia

■Serblin＆Son について

1. Fabio Serblin（ファビオ・セルブリン）

Serblin & Son の創設者であり製品開発を手掛ける Fabio Serblin。伝説的なスピーカー設計者 Franco Serblin（フランコ・セルブリン）の甥にあたり、幼少期から“第二の父”ともいえる存在であったフランコの影響を強く受けて育ちました。ファビオの父は土木技師でありながら電子工学にも深い関心を持ち、自宅で真空管ラジオを製作していました。そうした環境の中で育ったファビオは、12 歳にして真空管式短波ラジオを自作。若い頃から音楽の演奏や録音にも深く関わり、TASCAM テープレコーダーや Soundcraft のミキサーなどを備えた小さなレコーディングスタジオを所有するなど、音楽と電子工学の双方に親しみながら、その感性と技術を培っていきます。



Fabio Serblin 近影

Snail

1980 年代初頭、フランコが「音楽と楽器への情熱を具現化するスピーカーを作りたい」と考えた際、その実現を技術面から支えたのがファビオでした。こうして誕生した初期作品のひとつが“Snail”であり、その独創的な構造と設計思想は当時のオーディオ界に強い印象を残します。

1983 年に Sonus faber が創業され、フランコによる数々の名作が生み出されていく中、ファビオは電子工学の知識と技術を生かして製品開発に携わります。さらに、スピーカーの能力を最大限に引き出すためのアンプ開発にも取り組み、プリメインアンプ「Quid」、セパレートアンプ「Amator Driver + Amator Power」、サブウーファー「Gravis」の開発・製造を手掛けました（いずれも日本未導入）。

Amator Power を生産している様子。
全てがファビオの手により設計・生産されていました。

Sonus faber 創業当時の写真
左：Fabio Serblin
中央：Franco Serblin

2. 自身のブランド「Fase Evoluzione Audio」

Sonus faber で過ごした初期の日々についてファビオは、多くの人々との出会いや製品開発を通じてさまざまな経験を重ね、多くを学ぶことのできた貴重な時間だったと振り返ります。そして、自らをその世界へ導いてくれた叔父フランコに、今も深い感謝の念を抱いています。　その経験を礎に、やがて自身の理想とするオーディオ機器を追求する道を選びます。

1991 年、ファビオ・セルブリンは Sonus faber を離れ、自身の会社でありブランドでもある”Fase Evoluzione Audio”を設立。プリメインアンプやセパレートアンプをはじめとするオーディオ機器の開発・製造を開始しました。創業当初は、限られた資金と商業経験の中で困難なスタートを余儀なくされましたが、その後事業は徐々に軌道に乗り、ブランドとして成長。アンプのみならず CD プレーヤーなどへも製品ラインナップを広げ、新モデルを発表すれば絶賛のレビューをもらえるようになり、事業は順調に推移していました。

Fabio Serblin による自身の最初のブランド「Fase Evoluzione Audio」。
生まれ育った Vicenza にて創業し、全てのモデルをハンドメイドしていました。発売から 30 年以上経過したモデルは、今でも自身によるアフターサービスを継続しています。

2002 年、ファビオは自身を取り巻く環境の大きな変化を受け、製品の製造を停止する決断を下します。その後は既存ユーザーへのサポートを継続する一方、オーディオ機器の販売・流通ビジネスへと活動の軸足を移しました。
製品を「作る側」から「市場へ届ける側」へ――。この経験を通じて、それまで自身に不足していたと語る商業面での知識と経験を身につけていきます。そして、この時期に得た新たな視点もまた、後の Serblin & Son へとつながる重要な経験となりました。

3. 「Serblin & Son」の誕生

Fase Evoluzione Audio での製品開発・製造を停止した後、オーディオ機器の販売・流通ビジネスへと活動の軸足を移したファビオ・セルブリン。その経験を通じて商業面での知識を深める一方、長い時間を経て、自身が本当に情熱を注ぎたいものが何であるかを改めて見つめ直すことになります。そして 2018 年末、再び「自らの製品を創る」という、最も自分らしいものづくりの世界へ戻ることを決意。新たなブランド「Serblin & Son」を立ち上げ、製品開発を再開しました。
ブランド名は、自身の姓である「Serblin」に「& Son」を加えたものです。将来的にはファビオの息子にも事業に携わってほしいという思いから、“Serblin & Son”と名付けました。

Serblin & Son の製品は全てが北イタリア/ヴィチェンツァの社屋にて、ファビオ・セルブリン自身の手によって生み出されています。外部サプライヤーから供給される部品などを除き、製品の構想から開発、製造に至るまで、ほぼ全てをファビオ本人が担っています。

- 回路設計および PCB 設計
- 制御ソフトウェア開発
- 3D CAD ソフトによる意匠設計
- 受注・組立・検品・出荷

ファビオ氏の工房の様子

大規模な組織による分業ではなく、一人の設計者が製品全体を見渡しながら作り上げていくこと。それは、外観、回路、機能に至るまで、一貫した思想を宿らせることにもつながっています。Fabio Serblin は、その設計姿勢について次のように語っています。

「設計をする際、私は外観や機能、回路図といった個々の要素だけでなく、全体を一つのものとして捉え、構想を練るようにしています。そして開発は、あるきっかけで生まれる小さなディテールから始まり、そこからアイディアへと発展し、さらに「調和」をすることで初めて「鼓動」が生まれるのです。」

by Fabio Serblin

Fabio Serblin が掲げる「真のラグジュアリー」とは、単なる高価格や希少性ではありません。それは、**長く愛用できる“作品”としての価値を持つこと**です。頻繁なモデルチェンジはせず、長期的な使用とアフターサービスを前提とした設計思想だからこそ、作り手の思想が宿り、時間と共に価値が深まる作品を生み出す事ができます。なお、今日においても前身となる「Fase Evoluzione Audio」時代の製品のアフターサービスも継続しています。

（注）Serblin&Son と、弊社取り扱いブランド「STUDIO FRANCO SERBLIN」は、
それぞれ独立したブランドおよび事業体として運営されており、両事業上に関係はありません。

4. ファビオ・セルブリンの設計哲学により生まれた「Frankie」

ファビオが製品を設計するうえで基本としているのは「可能な限り“シンプル”にすること」です。自身の設計哲学について、彼は次のように語っています。

「私は、可能な限り物事を“シンプル”に保つことを心がけています。あらゆる面においてシンプルであることは私にとって理想的な状態です。一見すると最も簡単なことのように思えるかもしれませんが、現実の世界でそれを実現することは、実はとても難しいことなのです。

音楽は人の感情に深く関わるものであり、その再生もまた同様です。ごく普通のオーディオシステムで音楽を聴いていても、深く心を動かされ、驚かされることがあります。音楽そのものが奇跡を起こすのです。

私が目指しているのは、物量や力強さによって人を圧倒するような製品ではありません。独創的で心地よく、その中心に適切かつ入念に設計された「鼓動する心臓」を持ち、可能な限りシンプルで押しつけがましくない方法で、リスニングルームに音楽を生き生きと再現するーそんな作品をつくりたいと考えています。」

その設計思想を具現化し、Serblin & Son 最初のシリーズとして誕生したのが“Frankie”です。“Frankie”という名称には、自身の人生に大きな影響を与えた叔父 Franco Serblin への敬意とともに、“sincere（誠実な）”、“honest（正直な）”、“frank（率直な）”という意味が込められています。Frankie シリーズには、Fabio Serblin が Sonus faber 時代に手掛けた作品”QUID”のスタイリング、1991 年に独立して設立した Fase Evoluzione Audio で培った回路技術、そして現代の開発ツールや電子部品による新たな可能性が融合されています。40 年以上にわたり積み重ねてきた経験と技術を受け継ぎながら、現代のプロダクトとして新たに昇華するー“Frankie”は Fabio Serblin 自身の歩みと設計哲学を体現したシリーズです。

■Frankie hybrid preamplifier

■４本の双三極管によるバランス SRPP 回路

ラインアンプ部には、4 本の E88CC（6DJ8）双三極管を搭載し、バランス SRPP 回路によるハイブリッド構成を採用しています。SRPP（Shunt Regulated Push-Pull）回路は、2 つの三極管を上下に配置し、上側の球が下側の球の能動負荷として動作させる回路方式です。シンプルな構成でありながら低い出力インピーダンスを得やすい特長を持ち、真空管回路ならではの質感を保ちながら、パワーアンプを安定して駆動させます。なお、この SRPP 回路をバランス構成とすることで、真空管の持つ伸びやかで自然な音色を活かしつつ、プリアンプに求められる、情報量に優れた安定した信号伝送も実現しています。

さらに、アクティブ・カスコード方式の MOSFET 定電流源と組み合わせることで、
各増幅段に安定した動作環境を与えています。真空管と半導体、それぞれの特性を適材適所で組み合わせ、音楽の生命感や空気管を大切にしながら、微細なニュアンスまで自然に描き出すことを目指しています。
また、ラインアンプ部にオーバーオール・フィードバック（全体帰還）を一切かけない設計を採用。回路構成を可能な限りシンプルに保つことで、音楽信号の鮮度や自然な表現を重視し、音楽本来の質感や余韻をありのままに伝えます。

■独立・安定化電源による電源構成

電源部には、Serblin & Son のために専用設計された 60VA のトロイダルトランスを採用しています。メイントランスには 3 系統の独立した二次巻線を設け、ディスクリート構成による安定化回路と組み合わせることで、真空管によるラインアンプ部や微小信号を扱うフォノ回路など、各回路の役割に応じた安定した電源環境を構築しています。また、さらに、真空管のフィラメント用と MCU（マイクロコントローラー）／リレーなどの制御回路用に、それぞれ独立した小型 AC/DC コンバーターを搭載。音声信号を扱う回路と、ヒーターやデジタル制御系の電源を分離することで、微小な音楽信号を扱うプリアンプとして高い静粛性と安定した動作を実現させています。

■独自開発ボリューム・アッテネーター

Serblin & Son が自社開発する“Golden Stairway”アッテネーターを搭載しています。これは一般的なアナログ・ポテンショメーターやデジタル・ボリュームとは異なり、高精度な固定抵抗をリレーによって切り替えるステップ式アッテネーターを採用。信号レベルの調整を固定抵抗とリレーによって行うことで、優れた精度と信号品質を追求しています。接点品質や左右チャンネルの精度に配慮したこの方式により、小音量時においても左右チャンネル間のギャングエラーを抑え、経年による接点劣化のリスクを最小限に抑制、長期にわたり安定した音量調整を可能にしています。

■MM/MC 対応フォノ入力

本機は MM/MC 両方式に対応する高品位なフォノ入力を標準装備しています。フォノ回路はソリッドステート構成とし、入力段には超低ノイズのディスクリート FET を採用。RIAA イコライザーには、増幅回路のフィードバック・ループ内で補正を行う方式ではなく、独立した完全パッシブ方式の RIAA ネットワークを採用しています。また、微小なカートリッジ出力を扱うフォノ回路には専用電源を与え、安定した動作環境を確保しています。リアパネルの DIP スイッチにより、使用するカートリッジの特性に応じて負荷抵抗および負荷容量を調整可能。MM から MC まで幅広いカートリッジに対応し、それぞれの電気的特性に合わせた入力条件を設定することができます。

■アルミニウムとウォルナット無垢材が織りなす美しい佇まい

天面と底面には、ブラッシュド加工を施したアルミニウム製シャーシを採用。フロントおよびサイドパネルには、美しい木目と温かな質感を持つウォルナット無垢材を組み合わせています。精緻な金属加工によるアルミニウムの硬質な質感と、天然木ならではの柔らかな表情を融合させることで、クラシカルな温もりと現代的な機能美を併せ持つ、Frankie シリーズならではのデザインを実現しています。フロントパネルに配された 2 つのメタルスタッドは、Frankie シリーズに共通する象徴的なデザイン・エレメントであると同時に、操作部としての機能も兼ね備えています。プリアンプでは音量調整、入力切替、電源 ON/OFF の操作を担い、パワーアンプでは電源 ON/OFF を行うタッチセンサーとして機能します。これにより、機械式スイッチを前面に設けることなく、シンプルで端正なフロントデザインを保ちながら、直感的な操作性を実現しています。外観、素材、構造、そして操作機能を個別に考えるのではなく、一台のプロダクトとして美しく調和させる――そこにも、製品全体を自ら設計する Fabio Serblin のものづくりへの姿勢が表れています。

■Frankie stereo power

■Frankie monoblock power

■回路構成

“Frankie stereo power”および“Frankie monoblock power”は、いずれもクラス AB 方式を採用し、音楽の自然な躍動感とスピーカーを安定して駆動する能力の両立を目指して設計されています。電圧増幅段には、NPN トランジスターを採用した VBE マルチプライヤによる定電流回路を採用。さらに、Serblin & Son 独自のローカルフィードバックを備えたアクティブ・シャント回路により、電圧増幅段に流れる電流を動的に線形化し、終段のバイアス電流を極めて安定させます。これにより温度や負荷の変化に左右されにくい、一貫性のある増幅動作を可能とし、後述する出力段のパフォーマンスを十二分に発揮させます。

■電源部

“Frankie stereo power”および“Frankie monoblock power”には、それぞれの回路構成に合わせて専用設計された 250VA のトロイダルトランスを採用しています。

“Frankie stereo power”では、微小信号を扱う入力段および電圧増幅段と、スピーカーへ大電流を供給する出力段の電源を分離。独立した二次巻線とディスクリート構成の安定化電源を組み合わせることで、出力段に生じる大きな電流変動が繊細な前段回路へ及ぼす影響を抑え、各増幅段へ安定した電源を供給します。

“Frankie monoblock power”にも同じ 250VA のトロイダルトランスを採用していますが、フルバランス・モノラル構成に合わせ、二次側の出力電圧および電流仕様を専用に設計しています。内部の 2 つのアンプ回路を、それぞれバランス信号の正相側と逆相側の増幅に独立して使用する回路構成に合わせ、電源部から最適化を図っています。単に出力を高めることを目的とするのではなく、それぞれの増幅回路に適した電源環境を与えることで、安定した動作とスピーカーを駆動するための十分な電力供給を追求しています。

■出力段

・“Frankie stereo power”

左右 2 チャンネルのパワーアンプ回路を 1 筐体に収めたステレオ・パワーアンプです。クラス AB 方式の基本回路トポロジーを採用し、出力段にはコンプリメンタリー・エミッターフォロワーによる SEPP 構成を採用。定格出力は 110W/4Ω を実現しています。ブックシェルフ型からフロアスタンディング型まで、幅広いスピーカーに対応する駆動力を備えています。

“Frankie hybrid preamplifier”と組み合わせることで、セパレート構成ならではの静粛性、表現力、システム発展性を備えつつ、1 筐体のステレオ・パワーアンプとして設置性にも優れています。

・“Frankie monoblock power”

1 台で 1ch を受け持つモノラル・パワーアンプです。クラス AB 方式の基本回路トポロジーを基礎としながら、内部に備える 2 つのアンプ回路を、バランス信号の正相側と逆相側にそれぞれ独立して割り当てるフルバランス・モノラル構成を採用。定格出力は 250W/4Ω を実現。この構成は“Frankie stereo power”を単純にブリッジ接続して高出力化したものではありません。2 つのアンプ回路の動作に合わせて電源部の電圧・電流仕様まで専用に最適化。単に大きな電圧振幅を得るのではなく、スピーカー駆動に必要となる電流供給能力とのバランスを重視した設計としています。さらに、左右チャンネルをそれぞれ独立した筐体と電源で駆動するモノブロック構成とすることで、チャンネル間の電気的・機械的な相互干渉を抑え、それぞれのパワーアンプを独立した環境で動作させています。

■スピーカー出力

スピーカー出力には、Fabio Serblin が長年にわたり培ってきた経験と度重なるリスニングテストを通じて選択した、端子本体には真鍮を使用し、表面には導電性に優れた銀メッキ処理を施しています。接続方式をバナナプラグに限定することで、シンプルな構造と確実な接続を両立。アンプからスピーカーへ至る信号経路においても、接点の品質と安定した信号伝送に配慮しています。

■保護機能

アンプ本体と接続されたスピーカーを保護するための保護回路を搭載しています。アンプの動作状態はマイクロプロセッサーによって常時監視され、スピーカー出力端子のショートや出力部における異常な DC 電圧などを検知した際には、速やかに出力を遮断。アンプ本体だけでなく、接続されたスピーカーを故障につながる異常状態から保護します。

また、フロントパネルの LED によって動作状態や異常の発生を確認できるなど、長期間にわたり安心して使用するための安全性と信頼性にも配慮されています。

■Specification

Frankie hybrid preamplifier

背面

入力系統	XLR×2、RCA×1、Phono MM/MC（RCA）×1
出力系統	XLR×1、 RCA×1
真空管	E88CC（6DJ8） ×4 本
フォノ入力：インピーダンス	33Ω、100Ω、1kΩ、10kΩ、50kΩ
フォノ入力：静電容量	100pF、150pF、220pF、1000pF
消費電力	動作時 10W, スタンバイ時 0.5W 以下
外形寸法	W430 × D300 × H100mm（突起部含む）
重量	7kg
価格（税込/1 台）	1,100,000 円

アルミニウム製のリモコンも標準付属

※プリアンプにのみ

Frankie stereo power

背面

入力系統	バランス(XLR)×1、RCA(XLR)×1
出力系統	スピーカー出力(バナナプラグ専用)×1
定格出力	75W @8Ω、110W @4Ω
消費電力	動作時 13W,　スタンバイ時 0.5W 以下
外形寸法	W430 × D300 × H100mm（突起部含む）
重量	10kg
価格（税込/1 台）	660,000 円

Frankie monoblock power

背面

入力系統	バランス(XLR)×1、RCA(XLR)×1
出力系統	スピーカー出力(バナナプラグ専用)×1
定格出力	150W @8Ω、250W @4Ω
消費電力	動作時 18W,　スタンバイ時 0.5W 以下
外形寸法	W430 × D300 × H100mm（突起部含む）
重量	10kg
価格（税込/ペア）	1,320,000 円

（注）Serblin＆Son と、弊社取り扱いブランド「STUDIO FRANCO SERBLIN」は、
それぞれ独立したブランドおよび事業体として運営されており、両事業上の関係はありません。

株式会社アーク・ジョイア ArkGioia
112-0013 東京都文京区音羽1-1-7 正進社ホールディングスビル4階
Tel 03-6902-0480 Fax 03-6902-0944 www.arkgioia.com